

半田市環境基本計画に関する 評価・提案

(平成30年度分)

(案)

令和元年〇〇月

はんだ環境パートナーシップ会議

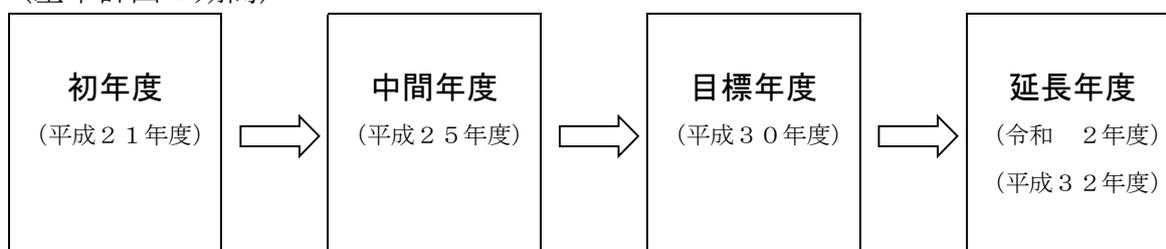
1. はじめに

平成21年3月に、半田市環境保全条例第7条に基づき、本市における生活環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的に、当初計画期間を10年間とした半田市環境基本計画（以下、「基本計画」という。）を策定しました。

中間年度である平成25年度において見直しを行い、平成30年度には次期計画を上位計画である総合計画と整合性を図るため、計画期間を令和2年度まで2年間延長しました。

基本計画に掲げる施策を実施・適正な進行管理のため、市民・事業者・行政・有識者で構成する「はんだ環境パートナーシップ会議」において、平成30年度実施分の評価を取りまとめましたので報告します。

（基本計画の期間）



2. 評価の方法

評価については、まず、担当課において実績報告票で「庁内評価」を行い、その結果を参考としながら、はんだ環境パートナーシップ会議において議論し「市民評価」を行い、総括的な評価としてまとめました。

「庁内評価」については、施策ごとに設定した指標（目標値）と現状値との比較や、平成30年度事業の実施内容・進捗状況を踏まえ、担当課において4段階の成果指標達成度を評価しました。

「市民評価」については、基本計画の5つの柱毎に施策の進捗状況、各指標の推移などを参考に4段階評価を行うとともに、施策の到達点や課題などについてまとめ、今後の施策推進に向けた提案をしました。

■庁内評価（成果指標達成度基準）

達成度 マーク	説 明	
 AA	目標値を達成しているもの	【計画を上回る】
 A	基準値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも上方（達成方向）であるもの	【計画どおり】
 B	基準値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも下方（未達成方向）であるものの、基準値からは向上、改善しているもの	【計画を下回る】
 C	最新値が、基準値よりも下方しているもの	【未着手】

■市民評価（評価基準）

達成度 マーク	説 明	
 AA	良好です	
 A	概ね良好です	
 B	改善・見直しの必要があります	
 C	改善・見直しを行い一層の努力が必要です	

5つの柱

1. ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち
2. 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち
3. 豊かな自然を守り、自然と共生するまち
4. 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまち
5. みんなで環境を守り育てるまち

3. 平成30年度分の評価・提案

柱1 ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

1-1 公害のない安心・安全な暮らしの確保

- 1-1-1 事業活動等から生じる典型7公害に係る環境基準及び関連規制を満たします。
- 1-1-2 ため池の水質改善を図ります。
- 1-1-3 河川・海域の水質改善を図ります。
- 1-1-4 地場産業である畜産業の発展のため、ふん尿処理に起因する臭気について、対策を図ります。

1-2 快適な市民生活環境の確保

- 1-2-1 交通流円滑化・交通量低減対策を図り、交通渋滞を解消します。
- 1-2-2 住環境の向上を図るため、市街地を整備します。
- 1-2-3 生活に起因する環境問題について、適切な対策を図ります。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
3	10	6	0	19

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
0	8	4	0	

《評価できる点》

- 大気汚染に係る環境基準を達成していることは評価できる。
- 環境保全協定事業所に対し、10事業所の工場等への立入調査実施は評価できる。
- 矢勝川の水質悪化の原因究明ができたことは評価できる。
- 畜産業による臭気の対策として、大学との共同研究を確実にっており、「糞尿含水率を早く下げることが臭気軽減につながる」など新たな知見を得ていることは評価できる。
- 畜産農家に対し、臭気対策に対する意識の高揚を図ったことは評価できる。
- 雁宿駐車場のパークアンドライド定期利用者及び全日定期利用者が上限に達しており、高水準を維持していることは評価できる。

○飼犬等の糞害に対する施策として、イエローチョークの試行といった他市町の施策を積極的に取り入れようとしていることは評価できる。

《期待したい点》

- 矢勝川の水質向上に向けて、原因を除去する効果的な取り組みに期待する。
- 畜産農家に対する環境対策補助事業の推進、臭気対策の普及啓発・指導等の施策を確実に実施し、市街地において臭気が低減されることを期待する。
- 知多半田駅周辺の更なる駐車スペースの確保とパークアンドライドの推進を期待する。また、半田市北部の乙川駅や亀崎駅での新規計画を期待したい。

《評価できない点》

- 半田市を代表する矢勝川の水質が長期間改善されておらず、悪化傾向にあること。調査は改善策ではなく、実態把握と考える。
- 神戸川のBOD濃度は、平成29年度までは目標値を達成していたが、平成30年度は達成されていない。原因解析が不十分である。
- 畜産業の糞尿処理に関して、臭気及び処理水の河川流出等に改善の余地がある。
- 飼犬等の糞害に対する施策のイエローチョークについて、市民はその活動を知らないのが現状である。

《問題と思われる点》

- 矢勝川の水質悪化の原因は、周辺地域からの汚濁成分の流入と長年蓄積した有機物等とあるが、原因究明が遅い。
- 矢勝川の水質悪化について、要因が特定できているのであれば、何らかの対策を試みつつ、改善につなげる必要がある。
- 平成30年度目標達成されていない神戸川のBOD濃度について、特定の日のみの要因も想定できるのでチェック・分析の必要がある。
- 畜産臭気については、発生源に対する法律面、資金援助をも含めた改善の必要がある。
- 犬の糞の放置対策として、マナー向上の啓発のみの取り組みに限界があると思う。

《提案》

- 矢勝川の水質の悪化については、汚濁源の調査だけではなく、水量を増やす方法など改善につながる対策を検討すること。(第1回会議より)
-

柱2 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

2-1 温室効果ガス排出量の削減

- 2-1-1 市内の温室効果ガス排出量を把握し、地球温暖化対策を各分野ごとに効果的に推進します。
- 2-1-2 産業・業務部門での対策を推進します。
- 2-1-3 運輸部門での対策を推進します。
- 2-1-4 家庭部門での対策を推進します。
- 2-1-5 市（行政）において率先して行動します。

2-2 資源循環型社会の構築

- 2-2-1 ごみを出さない（発生抑制）ライフスタイルや事業活動を促進します。
- 2-2-2 リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）を推進します。
- 2-2-3 廃棄物の適正処理を推進します。

2-3 環境に配慮した事業活動を推進します。

- 2-3-1 環境マネジメントシステムの導入促進を図ります。
- 2-3-2 事業者による周辺住民との自主的なリスクコミュニケーションを促進します。
- 2-3-3 中小企業等の環境に配慮した事業活動を推進します。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
6	16	16	0	38

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 B
0	4	8	0	B

《評価できる点》

- 「電気・都市ガスの1世帯当たり年間使用量」、「環境配慮型住宅用設備の導入件数」及び「家庭部門CO₂年間排出量」が目標を達成していることは評価できる。
- 半田市役所（本体）における温室効果ガス排出量のデータをホームページにて公表、及び温室効果ガス排出削減に向けた市報での啓蒙を実施した事は評価できる。
- バイオマス産業都市構想を推進していることは評価できる。
- 小中学校・児童センター等の公共施設に緑のカーテンを設置することにより、市

民に温暖化への関心、周知に努めたことは評価できる。

○ごみの分析（資源の混入率や食品ロス量）を実施していることは評価できる。

《期待したい点》

○電気・都市ガスの使用量の削減について、市民の意識をさらに向上させるような方策を検討することを期待する。

○更なる温室効果ガス削減に繋げるため、家庭用燃料電池、蓄電池など住宅用地球温暖化対策設備を導入促進できる補助金交付事業に繋げて欲しい。

○バイオマス産業都市構想の推進により、臭気対策や河川汚濁防止に期待できる。

○緑のカーテンは、今後も工夫して市民にアピールして欲しい。

《評価できない点》

○市民1人1日当たりのごみ排出量は、総ごみ量、生活系ごみ量ともに目標値に達していない。

○外国人増加に伴い、言葉の問題から3Rの推進が有効に機能しない地域がある。

○ごみ出しルールの指導を実施し適正なごみ出しを促したとあるが、ごみ出しルールの守られていないごみステーションが多々ある。

○ごんくるバスの利用を含め、エコモビリティライフを市民全体で共有していない。

《問題と思われる点》

○ごみ排出量削減に対する市民の意識が低い。

○エコモビリティライフの推進については、市民が実践する動機付けが必要である。

《提案》

○

柱3 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

3-1 うるおいのある緑・水空間の整備

3-1-1 緑や水と親しみ、身近に感じられる場を保全・創造します。

3-2 生物多様性の保全

3-2-1 生態系ネットワークに配慮した自然環境保全及び整備を推進します。

3-2-2 特定外来生物についての対策を図ります。

3-3 環境面からの農業振興

3-3-1 環境保全機能を持つ農地を保全します。

3-3-2 緑地確保のため農地の活用を図ります。

3-3-3 地産地消を推進します。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
5	15	4	1	25

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
0	11	1	0	

《評価できる点》

- 一人当たりの公園・緑地面積が目標を大幅に上回っていることは評価できる。
- 雁宿公園交通公園跡地の再整備事業は、こども広場、芝生広場、アスレチック広場が南エリアとして整備がなされ、親子に有効に利用されていることは評価できる。また、北エリアも花見の名所としてもにぎわいが戻りつつあることも評価できる。
- 「自然観察会」や「親子昆虫観察ツアー」の開催実施により、子どもの頃より自然環境保全に関心をもてる取組を行い、子どもたちの環境意識の向上を図っていることは評価できる。
- 耕作放棄地対策のために農地パトロール、利用意向調査など踏み込んだ対策を実施していることは評価できる。

《期待したい点》

- 公園整備事業を推進するとともに、公園の質の維持・向上に努めることを期待する。
- その他の公園再整備事業についても、利用者増につながる整備を期待する。
- 耕作放棄地を様々な方策によって減少させることを期待したい。

《評価できない点》

- 耕作放棄地面積の減少がここ数年停滞していること。
- 学校給食に半田市産の青果・豚肉・牛肉がほとんど使用されておらず、地産地消がなかなか推進されていないこと。

《問題と思われる点》

- 学校給食に半田市産の豚肉・牛肉はブランド品で高価なため、経常的に使用できないこと。また、青果については約 11,000 食分の納入可能なものがほとんどないこと。

《提案》

-

柱4 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にすまち

4-1 美しく半田らしい景観の整備

4-1-1 美しいまち並みを保全・創造します。

4-2 歴史的・文化的環境資源の保全と継承

4-2-1 地域の歴史的・文化的資源を保全・継承するとともに、環境に配慮した観光資源の整備を推進します。

4-3 ゆとりややすらぎ、活気のある空間の整備

4-3-1 公園や広場等の市民が憩う場の整備を推進します。

4-3-2 環境に配慮した中心市街地の整備を推進します。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
4	1 1	1	0	1 6

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
1	1 1	0	0	A

《評価できる点》

- 地域の歴史的遺産が整備され、市民に分かりやすく、また観光資源としても充実しつつあることは評価できる。
- 地域の若者を中心とした「亀崎の未来を考える会」を立ち上げ、町づくりの方針が策定されたことは評価できる。
- 景観についてのコンテストや出前授業は、あまり他にはない取り組みで新鮮味が感じられる。

《期待したい点》

- 亀崎仲町通りまちづくり方針の策定により、今後の町の活性化に期待したい。

《評価できない点》

- 衣浦大橋から亀崎北浦交差点付近までの46号線において、たばこの吸い殻やゴミのポイ捨てが非常に多い。

《提案》

○

柱5 みんなで環境を守り育てるまち

5-1 環境学習の推進

- 5-1-1 あらゆる世代への環境学習を支援します。
- 5-1-2 地域と学校が連携した環境学習を推進します。
- 5-1-3 環境学習指導者や地域での環境活動の担い手となる指導者を養成します。

5-2 市民・事業者・行政による良好なパートナーシップの形成

- 5-2-1 地域・事業者・行政など各主体間の連携を図ります。
- 5-2-2 各主体間における環境情報の共有及び活性化を図ります。
- 5-2-3 環境NPOや環境保全団体等の育成及び活動を支援します。

庁内評価（成果指標達成度数）				庁内評価 対象事業数
 AA	 A	 B	 C	
1	15	3	0	19

はんだ環境パートナーシップ会議委員評価				市民評価
 AA	 A	 B	 C	 A
0	11	1	0	

《評価できる点》

- 環境学習イベント参加人数が、目標を大幅に上回っていることは評価できる。
- アダプトプログラム登録者数が、目標を達成していることは評価できる。
- 家族向けの講座やイベントは、家族で環境について考える良い機会になっており、評価できる。
- 稲作・酪農体験を通じた環境学習は、食育や労働体験を含めて、地域と連携した良い手法であり評価できる。また、子ども達の環境学習の推進だけでなく、豊かな心の教育にも繋がっている。
- 関係各課や企業等と連携して環境教育を進めていることは、教員自身も専門家から最新の知識や技能を学ぶ機会となり、教職員の資質向上に繋がり評価できる。

《期待したい点》

- 環境学習イベントについては、さらに参加者が増加するよう、今後とも各種事業の継続・新設を行うことを期待する。

- 各種環境学習に市民団体等を積極局的に活用し、環境学習の裾野を広げていくことを期待する。
- 環境に対する身近な問題や知識を得た子どもや大人が、その知識を活用し、環境を守り育てる活動をしてくれることに期待する。また子ども達が故郷意識を持つことを期待したい。
- アダプトプログラム登録者数が今後とも登録者数が増加するよう、PR、支援等の事業を拡大していくことを期待する。

《評価できない点》

- 小中学校における環境マネジメントシステムの導入が現時点で難しいとされている点。
- 大人向けの環境学習が不足しているように感じる。

《問題と思われる点》

- 小中学校における環境マネジメントシステムについて、学校でのアクティブラーニングの流れにのせていくような方策など、実現可能性が十分に検討されていないと思われる点。

《提案》

-

はんだ環境パートナーシップ会議委員名簿

令和元年 9月 1日現在

	氏 名	所 属
1	千 頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授
2	藤 田 純 代	半田市小中学校校長会 板山小学校校長
3	平 林 明 美	半田商工会議所 人財育成委員会委員
4	深 谷 進 一	株式会社SUBARU 航空宇宙カンパニー 半田工場 総務部（総務人事） 主査
5	藏 谷 善次郎	半田市区長連絡協議会理事 瑞穂区長
6	和喜田 恵 介	特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会代表理事
7	石 川 由 弘	愛知県地球温暖化防止活動推進員
8	桑 田 八重子	みずほ環境保護クラブ代表
9	牧 野 純 子	半田こどもエコクラブサポーター
10	神 戸 繁 明	公募委員
11	近 藤 倉 治	公募委員
12	榊 原 正 躬	公募委員
13	鈴 木 俊 行	愛知県尾張県民事務所知多県民センター 環境保全課課長補佐

参考資料

市内評価

1. ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

■施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名	基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	達成状況	H30 長期目標	指標の推移(分析)	
環境課	大気汚染に係る環境基準達成率 (%)	二酸化硫黄	100	100	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	😊 AA	100	測定地点：雁宿小学校にて測定。年間を通し基準値以下である。
		二酸化窒素	100	100	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	😊 AA	100	測定地点：雁宿小学校にて測定。年間を通し基準値以下である。
		浮遊粒子状物質	75	100	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	😊 AA	100	測定地点：雁宿小学校にて測定。年間を通し基準値以下である。
		ダイオキシン類	100	100	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	100 AA	😊 AA	100	測定地点：花園小学校にて測定。年間を通し基準値以下である。
環境課	河川のBOD濃度 (mg/L)	神戸川	7.6	8.8	6.8 A	7.0 A	6.0 A	4.8 AA	4.7 AA	5.4 B	😐 B	5.0	毎月の調査では、例年と変わらず推移していたが、4月の結果が突出して高い数値を示した。今後対応をしていく必要がある。
		矢勝川	6.8	8.2	9.2 C	13.6 C	9.6 C	10.9 C	10.9 C	10.5 C	😞 C	5.0	調査地点の全てで基準値を超過している。調査を実施し、水質悪化の要因を特定することができたが、いずれも法令等で規制できることではないため、根本的な解決策を見出すまでには至っていない。
		阿久比川	2.5	2.0	2.3 AA	2.7 C	2.3 AA	2.3 AA	3.6 C	2.5 AA	😊 AA	2.5 基準値維持	昨年度見受けられた冬季の高い数値がなく、基準値内の数値となった。毎月の調査も例年と変動がなく、比較的良好な状態を保つことができている。
		十ヶ川	2.0	1.9	2.1 C	2.5 C	1.8 AA	2.0 AA	1.9 AA	1.6 AA	😊 AA	2.0 基準値維持	直近はH26年度をピークに環境が改善傾向にある。しかし、差異はわずかであるため、引き続き監視を続けていく必要がある。
		稗田川	11.1	9.7	7.5 A	7.7 A	6.4 A	5.5 A	5.7 A	5.1 B	😐 B	5.0	27年度以降、環境の改善傾向が見られるが、春から夏にかけて水質が悪化する傾向がある。流量の影響が考えられるため、監視を続けていく必要がある。
下水道課	公共下水道 (%)	人口普及率	75.7	84.2	85.7 A	86.6 A	88.5 A	89.0 A	89.0 B	89.0 B	😐 B	91.0	変更された計画に対しては、順調に推移している。
		整備率 (市街化区域内)	75.8	82.9	84.1 B	85.0 B	86.9 B	87.6 B	96.1 B	96.1 B	😐 B	100.0	整備年度の見直しにより、完了年度が伸びたが、変更された計画に対しては順調に推移している。
環境課	悪臭がなく空気がきれいと思う市民の割合 (%)	アンケート	42.2	51.2 (H25)	—	—	—	—	—	—	80.0	データなし	

■主体別取組別自己評価

達成度	マーク	施策別評価数			説明(具体的な指標・目標が無い場合)
		1-1	1-2	—	
AA	😊	1	2	—	目標値を達成しているもの(計画を上回る)
A	😐	6	4	—	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも上方(達成方向)であるもの(計画どおり)
B	😐	4	2	—	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも下方(未達成方向)であるものの、中間値からは向上、改善しているもの(計画を下回る)
C	😞	0	0	—	最新値が、中間値よりも下方しているもの(未着手)

庁内評価

2. 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

■施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名	基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	達成 状況	H30 長期 目標	指標の推移(分析)	
環境課	1世帯当たり 年間使用量	電気 (kWh)	5780	5,436	5,392 A	5,061 AA	4,752 AA	— —	4,904 AA	4,736 AA	😊 AA	5,200	中間値と比較すると、約13%減少している。H28年度は、電力自由化開始に伴い、正確な使用量を把握できなかった。 (※データ:中部電力提供)
		都市ガス (m ³)	408 (H18)	409 (H23)	409 (H23) B	409 (H24) B	395 (H25) A	392 (H26) A	377 (H27) AA	— (H28) —	—	390	都市ガスのみの数値であり、プロパンガスは含まない。省エネ意識の定着や機器の性能向上により年々減少している(※愛知県統計年鑑:都市ガス自由化開始に伴い、データなし)
	環境配慮型 住宅用設備 の導入件数 (累計数)	太陽光発電 システム	305	1,428	1,928 A	2,386 A	2,798 AA	3,117 AA	3,412 AA	3,719 AA	😊 AA	2,400	一事業所の電力購入実績件数である。年々増加傾向にあり、一般家庭での設置も定着したと言える。 (※データ:中部電力提供)
		高効率 給湯器	1,636	5,071	5,800 A	6,164 A	6,828 A	7,452 AA	8,134 AA	8,810 AA	😊 AA	7,000	一事業所の設置台数である。年々増加傾向にあり、一般家庭での設置も定着したと言える。 (※データ:東邦ガス提供)
	家庭部門CO2年間排出量 (千トンCO2)	171 (H17)	190 (H23)	190 (H23) B	198 (H24) C	178 (H25) AA	175 (H26) AA	157 (H27) AA	153 (H28) AA	😊 AA	185	按分計算であり、愛知県民1世帯あたりの数値となる。上記から省エネ意識が高まっていると考えられる。(※環境省:区域施策編支援ツール)	
クリーンセンター	市民1人 1日当たりの ごみ排出量 (g/人・日)	総 ごみ量	1,090	992	984 B	955 A	951 A	947 B	929 B	919 B	😐 B	915	総ごみ量は減少したが、生活系ごみ量については、市民がクリーンセンターへ直接持ち込みをしたごみ量が前年度より増加したことに伴い、増加してしまった。リサイクルを推進することで、総ごみ量、生活系ごみ量ともに減量させる必要がある。
		生活系 ごみ量	676	599	596 B	585 B	578 B	582 B	575 B	577 B	😐 B	542	
	リサイクル率(%)	20.3	24.1	24.1 B	23.6 C	23.6 C	22.8 C	22.4 C	20.8 C	😞 C	30.0	資源回収量の減少に伴い、リサイクル率が下がっている。	
環境課	エコ事業所登録数 (累計数)	—	89	141 A	170 A	171 B	170 B	171 B	172 B	😐 B	300	制度の未整備が原因と考えられる。事業所へのアンケートで環境に対する意識を調査したい。	
	エコファミリー登録世帯数 (累計数)	—	515	1,216 A	1,522 A	1,802 A	1,820 B	1,824 B	1,839 B	😐 B	2,500	平成27年度までは太陽光発電設置への補助金交付対象者の登録を義務付けており、順調に推移していたが、補助金制度の縮小により、横ばい傾向にある。	

■主体別取組別自己評価

達成度	マーク	施策別評価数			説明(具体的な指標・目標が無い場合)
		2-1	2-2	2-3	
AA	😊	6	0	0	目標値を達成しているもの(計画を上回る)
A	😐	8	7	1	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも上方(達成方向)であるもの(計画どおり)
B	😐	4	7	5	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも下方(未達成方向)であるものの、中間値からは向上、改善しているもの(計画を下回る)
C	😞	0	0	0	最新値が、中間値よりも下方しているもの(未着手)

庁内評価

3. 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

■施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名	基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	達成 状況	H30 長期 目標	指標の推移(分析)
都市計画課	1人当たりの公園・緑地面積(m ² /人)	5.8	6.2	6.2 B	7.1 AA	7.1 AA	7.4 AA	8.1 AA	8.1 AA	AA	7.0	新規公園整備を進めており、目標は達成できた。
経済課	耕作放棄地の面積(ha)	48.2 (H20)	29.3	27.4 A	28.4 A	32.5 C	34.5 C	35.2 C	33.8 C	C	25.0	利用状況調査や耕作放棄地再生事業等により面積の減少に向けて努めたが、農家の高齢化や離農が進み、増加傾向にある。
	市民農園の面積(m ²)	9,550	26,297	27,757 AA	27,757 AA	27,757 AA	27,757 AA	27,757 AA	27,757 AA	AA	26,297 現状地維持	耕作放棄地を活用し、市民農園を整備することで、緑地の確保を図り、農業の大切さ、地産地消を推進することができた。

■主体別取組別自己評価

達成度	マーク	施策別評価数			説明(具体的な指標・目標が無い場合)
		3-1	3-2	3-3	
AA		2	2	1	目標値を達成しているもの(計画を上回る)
A		6	4	5	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも上方(達成方向)であるもの(計画どおり)
B		0	3	1	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも下方(未達成方向)であるものの、中間値からは向上、改善しているもの(計画を下回る)
C		0	0	1	最新値が、中間値よりも下方しているもの(未着手)

庁内評価

4. 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にすまち

■施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名	基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	達成 状況	H30 長期 目標	指標の推移(分析)
都市計画課	まち並みがよく調和していると思う市民の割合(%)	アンケート	31.7	41.1 (H25)	—	—	—	—	—	—	50.0	データなし
	1人当たりの公園・緑地面積(m ² /人)	5.8	6.2	6.2 B	7.1 AA	7.1 AA	7.4 AA	8.1 AA	8.1 AA	AA	7.0 現状地維持	新規公園整備を進めており、目標は達成できた。

■主体別取組別自己評価

達成度	マーク	施策別評価数			説明(具体的な指標・目標が無い場合)
		4-1	4-2	4-3	
AA		1	1	2	目標値を達成しているもの(計画を上回る)
A		4	4	3	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも上方(達成方向)であるもの(計画どおり)
B		0	0	1	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも下方(未達成方向)であるものの、中間値からは向上、改善しているもの(計画を下回る)
C		0	0	0	最新値が、中間値よりも下方しているもの(未着手)

庁内評価

5. みんなで環境を守り育てるまち

■施策の進捗を見る指標・目標

担当課	指標名	基準値 (H19)	中間値 (H24)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	達成 状況	H30 長期 目標	指標の推移(分析)	
環境課	環境学習イベントの参加人数(人)	239 (H21)	538	767 AA	879 AA	1,194 AA	1,065 AA	796 AA	1,509 AA		600	出前講座において、未就学者向けのメニューを創設、実施し、また、イベントにおいては「親子昆虫観察ツアー」など新たに企画したことにより、参加人数を大きく増加させることができた。	
市民協働課	アダプトプログラム	登録者数(人)	8,022	7,383	8,057 A	8,106 A	9,563 AA	8,993 AA	9,064 AA	9,170 AA		8,500	登録団体数は目標には届かなかったが、登録者数は目標を達成できた。活動者の高齢化に伴い登録を解除する団体も少なくないが、全体として登録団体数、登録者数ともに少しずつ増加している。
		登録団体(団体)	147	181	168 C	172 C	156 C	168 C	172 C	178 C		250	
環境課	環境保全活動に参加したことがある割合(%)	市民アンケート	16.6	13.3 (H25)	13.3 —	38.9 A	— —	47.0 AA	— —	43.0 AA		40.0	2年前よりも4ポイント減少しているものの目標達成できている。市民に環境保全活動に対する意識が定着してきたと思われる。 (※総合計画アンケート)
		事業者アンケート	27.0	33.9 (H25)	33.9 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	50.0

■主体別取組別自己評価

達成度	マーク	施策別評価数			説明(具体的な指標・目標が無い場合)
		5-1	5-2	—	
AA		1	0	—	目標値を達成しているもの(計画を上回る)
A		8	7	—	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも上方(達成方向)であるもの(計画どおり)
B		2	1	—	中間値から、目標値まで直線をひいたときに、最新値が直線よりも下方(未達成方向)であるものの、中間値からは向上、改善しているもの(計画を下回る)
C		0	0	—	最新値が、中間値よりも下方しているもの(未着手)